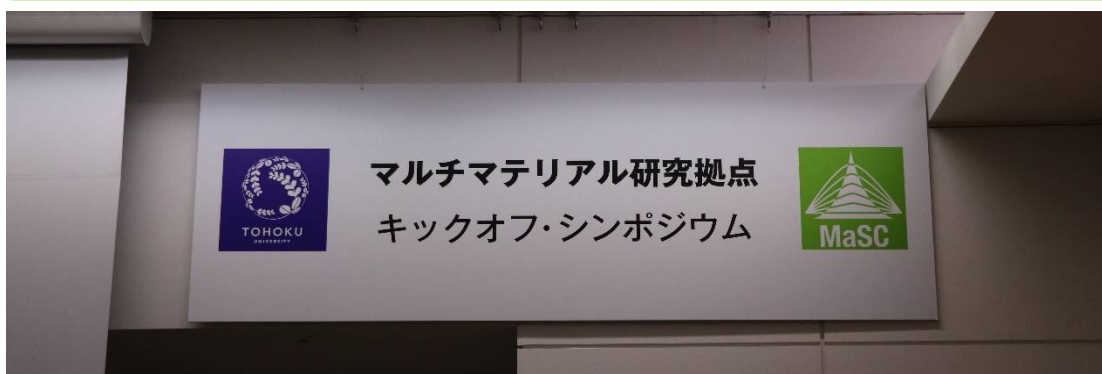


2019.1.10

『マルチマテリアル研究拠点キックオフ・シンポジウム』を開催しました。



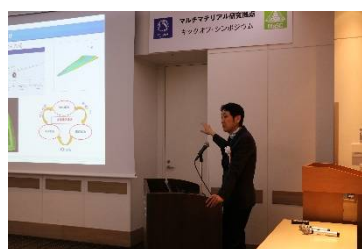
2019年1月10日(木)、ステーションコンファレンス東京にて、『マルチマテリアル研究拠点キックオフ・シンポジウム』を開催しました。参加者は91名で、マルチマテリアル研究拠点代表である、工学研究科の岡部朋永教授による開会の挨拶から始まり、続いて経済産業省製造産業局航空機武器宇宙産業課長の畑田浩之氏、NEDO 理事(材料・ナノテクノロジー部掌理)の今井浄氏、本学の矢島敬雅理事(産学連携担当)からご挨拶をいただきました。



講演会の始めに、産学連携先端材料研究開発センター長の大林茂教授が「MaSC のご紹介と研究拠点への期待」について話され、次に、「マルチマテリアルによるアディティブ・マニュファクチャリング」と題して、工学研究科の岡部朋永教授が講演を行いました。次に、金属材料研究所の千葉晶彦教授が「金属積層造形技術によるマルチマテリアルの創製」と題して講演し、前半は終了しました。



講演/大林茂教授



講演/岡部朋永教授



講演/千葉晶彦教授

休憩をはさみ、後半は、渡邊誠氏(国立研究開発法人物質・材料研究機構 構造材料研究拠点 接合・造型分野長)が「材料開発加速のためのMIシステム開発」と題して講演し、最後に、多喜義彦氏(システム・インテグレーション株式会社代表取締役社長/MaSC 客員教授)が「産学連携のあるべき姿～MaSC に期待すること～」と題して講演しました。



講演/渡邊誠氏



講演/多喜義彦氏

講演会の最後には、「マルチマテリアルに寄せる期待と研究拠点の役割」というテーマで、パネルディスカッションを行いました。



講演会終了後には交流会が行われ、和やかな雰囲気の中、活発な意見交換を行いながら、交流を深めました。

